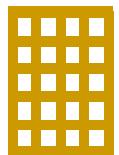


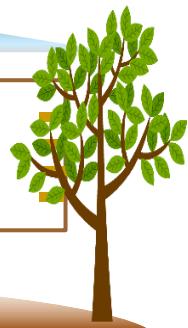
# ぼちぼちいこか

学校だより4月号

2025.4.9発行



教育理念  
生きる喜びを抱き  
自ら学びを拓く



## 友とつながり強くたくましく

校長 大谷 京司

4月の新入生を迎える時期になると、学校の竹やぶに続く木の階段の両脇にたくさんのきれいな花を咲かせるシャガ。周囲には大きな木や竹がうっとうと茂り、あまり日が当たらず薄暗い感じがするところに、ひときわ目立つ花が群生する様子は、目にした瞬間ハッとさせられます。



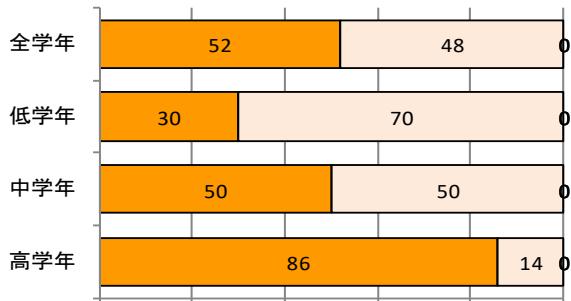
6枚の薄紫色の花びらのうち交互に3枚だけ濃い紫色と黄色の模様がついており、これが昆虫を奥の蜜に誘導する目印となっているそうです。日本のシャガは種子をつけず、地面の下で地下茎によりつながっており、子株を増やし群生することです。

たとえ日が当たらなくとも仲間とつながり色鮮やかに咲き誇るシャガのように、子どもたちが友とつながりたくましく成長できるよう、今年度も職員一丸となって教育活動にあたっていきたいと思います。

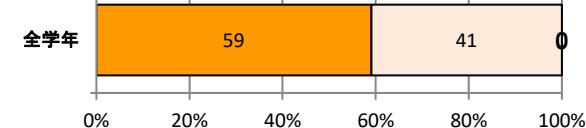
### 個別化・協働化を往還する授業デザインを

令和6年度 学校評価  
アンケートより 数字は%  
■ とてもそう思う  
□ そう思う  
■ あまりそう思わない  
■ 思わない

#### 2 授業の内容はよくわかります【児童】



#### 2 学校はわかりやすい授業に努めている【保護者】



子どもたちの毎学期の「今学期頑張りたいこと」のほとんどは、教科の学習への頑張り宣言です。自由進度で進められる個別的な学習と互いに意見を交わしながら創り上げる協働的な学習を往還できる授業デザインに努め、ワクワクする授業を進めていきたいと思います。

### 13年間の思いを子どもたちへ

3月25日修了式の後、教頭先生から退任するにあたって、「わたしの生き方」と題した卒業研究発表という形で、子どもたちへ熱いメッセージが送られました。子どもたちへの希望を質問することは度々あるものの、自身への希望を問い合わせた時、自分の今までのキャリアを生かして自分ならではの教育への関わり方があるのではないかということで、新たな仕事に就くことを決意したと述べられ、希望を抱くとの大切さを伝えてくれました。

本校創立の翌年から、長きに渡り教育活動を支えていただいたことに改めて感謝いたします。

ありがとうございました。



# 良きリーダーたちよ 大きくはばたけ！

3月15日、校門脇の河津桜が満開となる中で、第13回卒業証書授与式を挙行いたしました。

令和6年度の卒業生は3名。

受付には入学してきた頃の

写真と6年生の時の写真が

飾られていたが、あどけない

表情の純粋さはそのままに、心身ともに

大きく成長した卒業生の姿がとてもまぶしく感じられました。



卒業式は儀式的な第1部と子どもたちが児童会を中心に企画・立案・運営する第2部の2部構成で行われます。

第1部の最後には、卒業生一人ひとりが自分の将来の希望をプレゼンテーションする「卒業研究発表」があります。自分の希望をかなえていくには、今何が自分に足りなくて、中学校やその先に進んでいく中で、どのようにその力をつけていくか、そして、その希望をかなえていくことで、どのように社会貢献できるのかなど、3人は力強く発表することができました。

第2部では、子どもたちが手作りした木製のペン立てとアルバムを、メッセージを添えて卒業生に手渡しました。ペン立てには、卒業生が好きなものや思い出深いものが描かれており、オンリーワンのプレゼントに卒業生も思わず笑顔になっていました。さらに、在校生による歌「エール」の合唱で会場が盛り上がったところで、最後に卒業生から初等学校の思い出や在校生へのたすきをつなぐメッセージが送られ、終始温かな雰囲気の中、閉会となりました。



閉会後は、卒業生3人が会場を後にする際、参加者全員で花道を作り、一言ずつ声をかけながら送り出しました。門の脇では一人ひとりに配られた色とりどりの風船を一斉に解き放ち、空に舞い上がる風船に目をやりながら、卒業生のこれからさらなる成長をみんなで願いました。



風船は自然に還る素材で作られています